コミュニティ静岡

あなたのまちの
コミュニティ活動情報誌

2016
4月
No.142

夕陽の美しさを案内して10年
夕陽ボランティアの会（西伊豆町）

大田子海岸の夕陽　　右上：堂ヶ島海岸でのガイドの様子

▼伊豆西海岸線に沈む夕陽は、周囲の風景を真っ赤に染めながら瞬く間に海の水平線に姿を隠していく…。

日本一の夕陽を世界に発信するため、平成17年に町から夕陽ボランティアの依頼を受けた「田子写真同好会」は、町内に宿泊する方を対象に夕陽のベストポイントへ案内し撮影の助言活動を始め10年を迎えた。

▼平成22年、活動拠点として大田子海岸に夕陽展望所が建設されたことを機に、春分の日と秋分の日の前後１カ月は15時から日没まで常駐し、訪れる観光客に自家製甘茶のサービスや撮影案内を行っている。

最近は海外からの観光客も多くなり、片言の英語とジェスチャーで応対している。

展望所では、田子地区まちづくり協議会から応援に来てもらい、手作り鹿肉の串焼きやお土産などの販売も行っているが、必要経費を払うと残りは雀の涙。自己財源の確保はなかなか難しい。

▼この期間１日平均60～70人の観光客を少人数で対応する日々が続き大変ではあるが、西伊豆の夕陽の素晴らしさを多くの人に見てほしい、写真に写してほしいという思いを胸にボランティア活動を続けている。

◇代表：山本一磨さん（問合せ・090-7680-7617）

【情報提供・鈴木深雪】

Contents No.142

各地の活動	●西伊豆町	1
クローズアップ	●ふるさとが平川になることを願って（菊川市）	2~3
各地の活動	●富士市･島田市･御前崎市･磐田市･浜松市	4~5
地域訪問記	●「大割公園」はコミュニケーションの場（静岡市）	6
特別レポート	●関東･東北豪雨災害ボランティアレポート 神谷尚世氏	7
コミ推協から	●コミュニティ･フォーラム2016を開催しました	7
	●コミュニティカレッジ、活動集団育成事業のお知らせ	8

コミック
のりづき・りえ

クローズアップ

ふるさとが平川になることを願って
～外国人児童の支援ボランティア～

菊川市青少年健全育成市民会議　平川支部

高い外国人比率

菊川駅から南に車で15分ほどにある旧小笠町の平川地区は、区民4,200人のうち800人の外国人が生活している。周辺地域には働く場が多くあること、アパートの家賃が安いこと、公立小中学校の受け入れ態勢ができていること、旧小笠町地域にある2つのブラジル人学校と公立学校に円滑に転入するための支援を行うNPO法人の教室があることなど、職場、住居、教育と生活のインフラが他に比べ整っていることが19%と高い外国人比率に表れている。

この地区の外国籍の子どもたちが、将来平川地区を「我がふるさと」と思うようになるための日本文化に親しむ活動と、「愛郷心と他人の痛みが理解できる子」を育成するための見守り事業を展開している「菊川市青少年健全育成市民会議 平川支部」を訪問し、二俣さん、赤堀さん、佐藤さんと平川会館館長の橋本さんに外国児童支援活動についてお話を聞いた。

多文化共生事業を積極的に開催

時には先生の通訳もはさみながら作製

「せっかく菊川の田舎にまで来てくれたんだから共生をしたい。そして子どもを見守ることで、親ともつながることができる」と考え、外国人学校の生徒を対象にした凧作りや餅つき、漢字の勉強会を開催している。

3年前から始まった凧作りは、揚げることをメインに楽しんでもらうため、下準備に抜かりがない。手探りで始めた初回は、4か所を糸で縛ることに1時間掛かり凧揚げの時間が無かったことも今では笑い種。以前は落ちると壊れてしまう物が多くあったが、その後、会員の努力により壊れない凧に改良された。自宅に持ち帰れば家族の話題にもなり、親も日本の文化に興味をもってくれるはずである。

1月の餅つき大会には75人の子どもが参加。参加者が多いので1人4回程度しか杵を振り下ろすことができないが、みんなで「よいしょ、よいしょ」と声を掛け、ついたお餅を日赤奉仕団の方々と一緒に丸め、あんこときな粉をまぶして美味しそうに頬張った。因みにブラジルの子たちはきな粉の方が口に合うとのこと。この2つのイベントは学校行事の1つとして行われている、文化を知ることは大切だという学校の姿勢が表れていると感じた。

思い思いの文字を書いた凧が、青空に泳ぐ

また、支援教室を卒業し公立学校で学んでいる子どもを対象に年3回「子どもたちと日本語の漢字について勉強しよう」を行っている。カタカナやひらがなは読めても漢字でつまずくことが多く、教科書を持参させ漢字の意味や読み方、ルビ振りなどの勉強をサポートするボランティア活動である。

初めての餅つき、臼をつくのもご愛敬

夢中になって餅を丸める

取り組みの積み重ねが将来につながる

「今後も子どもが喜ぶイベントを行っていくのはもちろん“漢字について勉強する会”の回数をもっと増やさなければと思っている。そのためには会員を増やし、元学校の先生に活動への参加を呼び掛けたい」と語った。

同地区では家を持ち、自治会に入っている人たちも数名いる。また住みやすい地域と伝わっているのか、住民の減少も少ないという。「ブラジル人と日本人の結婚がありふれたものになったら私たちの思いが報われる時かな」と語る二俣さんの言葉に頷く皆さんから、彼らに対する友愛を感じた。彼らが平川を離れても地域の人たちに見守られていた子ども時代を忘れることはないだろう。

◇代表者：二俣七七男さん
（問合せ・0537-73-1010（平川会館））
【情報提供・渡邊政幸】

レポート・事務局 青島アサイ

美味しくいただきました

■地域をつなぐ人

『御殿場の森からの贈り物』

NPO法人土に還る木・森づくりの会　**小松　豊** 氏

市民参加の森づくりと間伐材の活用

昨年、NPO設立15周年を迎え、今年から新たな気持ちでスタートを切りました。

持続可能な森づくりを目指し、御殿場市内の「再生の森」を拠点に森づくり活動を行っています。昨年は地元をはじめ、都会の小中高生、アフリカや東南アジアからのJICA海外研修団の皆さんなど約4,000人の方が森づくりや間伐材を利用した体験教室に参加されました。また、昨年より一般の方が毎月参加出来るDIY木工教室を開催し、木工ガールが誕生しました。今後も多くの方に参加していただき、森づくりや間伐材を活用した物づくりの楽しさを感じてもらえたらと思っています。

シニア世代の生きがいづくり

森林整備による間伐材や林地残材を利用した、木工製品の製作を当NPOの工房で行っています。工房には展示・販売コーナがあり自然木を生かしたユニークな製品が展示してあります。とりわけ木工製品では屋外ガーデニングテーブルが好評で、県内外に400セット出荷しています。会員の大半はシニア世代ですが、定例作業日には工房で毎回、楽しく物づくりに取り組んでいます。各種イベント出展による木工製品の販売収益は社会貢献事業（ボランテイア活動等）の資金として活用し、自主財源を確保しています。シニア世代の仲間が楽しく、健康で生きがいとなるような活動を行っています。

富士山麓の自然

御殿場市・裾野市・小山町は富士山の東麓に広がる北駿とも呼ばれ、この地域には、標高差、地形、地質の違いなどに起因する多様な環境が存在し、絶滅危惧種をはじめとした希少な生物が多く生息しています。これらの生態系を多くの方に紹介するために当NPOでは「富士山麓の自然」の冊子を3年前より発刊しました。今年の秋に発刊予定の第4刊では御殿場の自然と歴史（御殿場での西園寺公望公＆広岡浅子等）を紹介したいと準備しています。この冊子は地元の小中学生をはじめ、県内外から高い評価を得ています。

森づくりは人づくり

当NPOで「木づかい教育」として小中学校の生徒を対象とした間伐材を使った木工クラフトや森づくり活動を行っています。子どもたちが金槌やノミ、鋸を使うことによって五感を感じてもらえればと思っています。

まちから・むらから

●富士市

まちづくりセンター玄関脇を石庭に変身！

コミカレ富士川

息のあったチームワークであっという間に完成

▼富士川まちづくりセンターの玄関ポーチに素敵な石庭が完成した。作業を行ったのはコミカレ富士川の会員。定例会で、何かみんなでやることはないかと話し合ったところ、センター玄関脇が日も当たらず、雨も当たらないので植物が育ちにくく長い間放置されていることを思い出し、比較的管理が楽な石庭に変身させよう！と決定し庭造りに取組んだ。

▼図面を提出し、市の許可を得たところで作業開始。手前に季節ごとに咲く花々の球根を植え、最後に会員手作りのほうきで砂紋を入れ素敵な石庭が２時間半で完成した。終了後センターからいただいたお茶がとてもおいしく感じられた。

▼スイセン、チューリップ、ヒガンバナなどの球根や土は会員が持ち寄り、必要な資材である砂利や小島の石は企業からの寄付による支援があったからこそ石庭を完成することができた。センター利用者の皆さんに今後は季節ごとの花を楽しんでいただけたらと思っている。

◇代表：前島邦子さん（問合せ・0545-81-2527）

【情報提供：前島邦子】

●島田市

商店街が賑わうように高校生に壁画依頼

金谷地区社会福祉協議会

▼平成 26 年に発足した当協議会は 17 ある自治会の協力の下、各地域の福祉団体が交流をすることにより地区全体が１つになり、住みやすい地域を作っていくことを目指している。

▼宮崎町の商店街にある空き店舗を利用した事務所は、現在毎週水曜日のみ居場所づくりのために開放されているが、その日以外はシャッターが下りている。そこで当協議会の周知と事務所の前の通りが少しでもにぎわうようにと、金谷高校美術部に事務所出入り口シャッターに壁画の制作依頼したところ快く引き受けてくれた。奇抜な絵は NG とだけ伝えお任せしたところ、高校生たちは地域の今昔の移り変わりを時系列で表現し、訪れた人々が感動するような壁画を制作している。冬休みから取り掛かった作業は、学校が始まってからは休日などを利用して行われ４月頃の完成となっており、道行く人は完成を待ち望んでいる。もし制作中の彼らを見かけたら、是非声を掛けてください。

2月末の様子、完成が楽しみ

◇代表：暮林亮治さん（問合せ・FAX0547-46-2525）

【情報提供・杉村美子】

●御前崎市

女性パワーで 25 年、町に響け！女太鼓

なぶら御前太鼓保存会

凛々しいバチさばき

▼平成３年に旧御前崎町の商工会女性部が始めたなぶら太鼓は、大人のメンバーは女性のみで構成されている。現在、御前崎観光協会とタッグを組み、市内外の各種団体などから依頼されイベントやサロン訪問、子どもの太鼓体験教室など御前崎市の PR 活動と地域の活性化を担っている。

▼会には子ども太鼓があり、男女の小中高生が 14 人在籍している。次世代の育成と太鼓を通じて礼義や節度を教え、地域の青少年育成活動の一役にもなっている。子ども太鼓で育った会員が、高校生、社会人となり、今では後輩の指導や各種ステージの中心となって活動してくれている姿が頼もしい。

▼女性ならではの苦労を聞いたところ、「小さな絞太鼓でも 10kg 以上あり、運搬から設置まで自分たちで行うので力仕事が少し大変。でもそれ以上に太鼓は楽しい」とのこと。今後も大漁旗の法被をひるがえし、男性の演奏とは一味違った迫力と感動を皆様に伝えたく練習に励んでいる。

◇代表：池田美穂乃さん（問合せ・0548-63-4743）

【情報提供・川口まさ江】

各地の活動情報

●磐田市

郷土を知ろう!「田原ふるさと検定」 田原「検定づくり」委員会

ミニガイドブック制作検討の様子

▼太田川の流域には美しい田園風景が広がっている。磐田市田原地区は、そこに隣接する住宅地域で、7つの自治会で構成され1731世帯が暮らしている。今回「田原地区をより深く知ってもらい、郷土愛を育てたい」と田原ふるさと検定が実施された。まずは、産業・歴史、文化・スポーツ・食文化の各部門の地区の有識者でつくる検定づくり委員会が発足し、携帯できる「田原ふるさと検定ミニガイドブック」を製作し各戸回覧。検定の問題は、すべてこのミニガイドブックより出題される旨を広く伝え、住民の関心を深める努力をした。

▼過去2回開催され100人が挑戦した。合格率は20%で満点はまだいない。

参加者からは、「難しい」「検定で初めて知ることもあった」「家に帰り復習し、次回も挑戦する」などの感想があり主催者も手ごたえを感じた。この検定は大人を対象に企画したが、子どもたちも参加するなど思わぬ収穫を得た。これを機に3回目は、子ども目線で考えた田原ふるさと検定を計画している。

◇代表：坂部哲之さん
（問合せ・0538-35-4269（交流センター））
【情報提供・羽田栄子】

●浜松市

中心街で起こった買い物弱者、解決に取組む 高町まちづくり協議会

▼浜松市中区役所の西側に位置する高町は、約390世帯755人が暮らしている。住民の高齢化が進む中、町内主要小売店の閉店が進み高齢者世帯が日常の買い物に困難をきたす事態が発生したため、自治会主体で「まちづくり協議会」を立ち上げ、日曜朝市を企画し住みよい環境づくりに努めている。

▼毎月第3日曜日、学校駐車場に常時12、3店舗が出店。10時からの開店に9時30分ごろからお客が集まりだし、特に採れたて野菜は1時間ほどで売り切れてしまう。毎月200人前後が日曜朝市を心待ちにしており、近年は同じような状況にある近隣町内の方も買い物に訪れている。

▼「住民アンケートをきっかけに始まった朝市も今年で9年目。これからも需要は高まっていくので町民のニーズを把握する各種アンケートを実施しています」と杉浦代表は言う。

来店するとスタンプが押され、6個たまると100円の金券になるポイントカードを発行するなど集客にも工夫を凝らしている。

採れたて野菜の直売、大盛況

◇代表：杉浦國裕さん 【情報提供・鈴木正充】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス　http://www.sizcom.jp ）

No.	市町	活動名	主催者	月日	場所
1	東伊豆町	花を通じ心と地域を豊かに美しく	東伊豆町花の会	年間を通じて	町内9か所の花壇と庁舎周辺 町内配置のプランター
2	裾野市	第12回「フェスタ須山」開かる	須山地区青少年育成連絡会	平成27年11月29日(日)	須山地区研修センター 地区文化財史跡(5コース)
3	富士宮市	まちの子はみんなわが子	富士宮市母親クラブ連絡協議会	月2回 遊びの教室:平成28年4月13日(水)	富士宮市大富士交流センター　富士宮駅前交流センター　富士宮市総合福祉会館
4	焼津市	楽しい物語の世界に皆様をご招待	かざぐるま	図書館:毎週土曜日	焼津市立小泉八雲会館 焼津市立図書館
5	島田市	「ふるさと」第52号発行	初倉郷土研究会	平成28年2月20日(日)第52号発行 年2回発行	初倉公民館
6	菊川市	招福健康まつり	河城地区コミュニティ協議会 健康福祉部	平成28年2月6日(土)	河城地区センター

地域訪問記

「大割公園」はコミュニケーションの場

～エコライフで地域を住みやすく～

住みよい東新田にする会（静岡市）

本会は、安倍川西側の国道150号線北側にある1,600世帯が暮らす「東新田地域」に、平成16年度静岡市エコモデル推進事業の一環として、エコモデル地域として発足した。静岡市の「エコライフ宣言」の第1号として認定された非常に環境意識の高いところである。この発足を機に、自分たちの住むまちを住みやすくするため、希薄化されたコミュニケーションを高めようと地域住民、企業（商店）、小学校を含め、身の回りのことから広く環境問題を考える活動を進める取組みをしている。現在、会員11人が、この地域の玄関ともいえる東新田北交差点付近に花壇を設置し、花が絶えないよう植栽活動やメイン通りの清掃活動など、その名の通り「住みよい東新田」に寄与している。

花壇の手入れを小学生が見学

エコふれあい広場の開催

地域の中心に位置する「大割公園」では毎年12月に環境問題をテーマとしたイベント「エコふれあい広場」を開催している。大人も子どもも楽しみながら環境問題（ごみ減量、省エネ、４Ｒの推進など）を考えることのできるよう体験、展示、クイズなどを織り交ぜながら地域勉強会を開催している。また、毎月第１水曜日には天ぷら廃油の回収作業を行っており、年間1,000ℓ前後の廃油を回収業者に引き取ってもらい活動費に充てている。

たくさん持ち込まれた廃油

活動の内容

＊川原通りの清掃活動
＊花壇づくり（年２回の植栽、毎日水遣り）
＊天ぷら廃油の回収（毎月第１水曜日、７カ所）

町内運動会で人気！「ゴミ分別ゲーム」運動会でも環境学習

＊自治会行事への参加（運動会、夏祭り）
＊エコふれあい広場の開催（年１回大割公園）
＊長田東小学校との交流活動（クラブ活動、花壇づくり、畑づくりなど）
＊その他の環境活動
（アイドリングストップ運動、ポイ捨て防止運動、古紙重点回収など）

活動を通じて

地域の方と楽しく交流、手芸クラブ

設立当初からご尽力されている花枝会長をはじめ、石川さん、入口さん、杉島さんは異口同音に「ボランティアは一人ではできない」「自分の事を優先してからボランティアをやってもらう」「続けていくことが大事である」「お金には代えられない労力である」など、ボランティアに対する愛着心がにじみ出るようであった。

最後に花枝会長より「出来る限り継続していきたい」と力強いお言葉をいただいた。

◇代表者：花枝弘志さん（問合せ・054-259-9551）
【情報提供・内山和俊】

レポート・鈴木孝治 編集委員

関東・東北豪雨災害ボランティアレポート

ひとつひとつのつながりが、このためだったんだと思える関係になっていく

NPO法人コラボりん湖西代表理事・推進専門委員　神谷尚世

昨年９月におきた関東・東北豪雨への支援は、５年前の東日本大震災での支援がはじまりだった。

５年前の３月11日、東日本大震災がおきた。震災当初、東北、関東の各地でガソリンが不足。移動途中の給油が困難であったため10ﾄﾝトラックで往復できる範囲を聞いたところ茨城県までだと…。

それならと茨城県社会福祉協議会の方を紹介していただき、東海村と大洗町に連絡をとり、その地域が必要としている物資を３月19日に送った。約２日の準備で集めた物資は、東海村だけでも500人以上の方の手に渡った。しばらくしてから東海村社会福祉協議会の方に初めてお会いした時、涙を流しながら「あの当時はありがとうございました…」と言っていただいたことを今でも鮮明に覚えている。

ご縁で支援

そのご縁で昨年９月の常総市への支援では、こちらから直接送ることが困難だったタオルなどを東海村の社会福祉協議会に送り、そこから車で常総市に運んでいただいた。

湖西市民活動センターでバスタオルやタオルの収集を呼びかけたところ、新聞でも取り上げていただき、県内各地、豊橋市からもタオルなどが約4,000枚寄せられた。

1,000枚は常総市に送り、時期が過ぎ必要がなくなったタオルは湖西市内の工場でウエスとして引き取っていただき、42,000円の現金に変え、寄付金10万円と合わせて持ち、10月と11月に２日間ずつ湖西市の新居災害ボランティアの仲間と炊き出しに行った。

2ヵ月経っても水道が使えない所も

11月下旬に炊き出しに行った場所では、まだ水道が使えず子どもたちにご飯を作ることも、お風呂にいれてあげることもできないママたちに出会った。ママたちは温かいパスタが食べたいと言っていた。

この日のメニューは、ナポリタン、焼き鳥、三ケ日みかんなど

コミュニティ・フォーラム2016を開催しました

人口減少社会におけるコミュニティづくり

■ 2016年2月13日（土）午前10時30分～午後3時　■ 袋井市 メロープラザ

「人口減少社会におけるコミュニティづくり」をテーマに、県内各地から約350人の参加者を迎えフォーラムを開催しました。

コミュニティ活動賞の表彰を行うとともに、基調講演では、芥川賞作家の玄侑宗久氏に「ここで生きる覚悟」と題して、日本人は物事や現象に対して双方の見方を持っており、様々なものを認めながら生きることや、根をしっかり張って、風にまかせて揺らいでいくことの大切さなどについての御示唆をいただきました。

優秀賞を受賞された皆様
おめでとうございます

また、パネルディスカッションでは、当協議会推進専門委員の川口良子氏をコーディネーターに、自治会役員、現役大学生、子育て支援団体代表の３人のパネラーにコミュニティの現状と将来展望について議論を深めていただきました。

パネルディスカッション

袋井南小学校のマーチングバンド☆South Windsの演奏は、「息があっている　すばらしい　感動で涙が　小学生？」と参加者から多くの賛辞が寄せられました。

会場では、東日本大震災復興支援のため、南部せんべいなどが販売されましたが、すべて売り切れていました。ボランティア意識の高い方々が集うフォーラムだと改めて感じることができました。

地域活動に関心のある方へ！

コミュニティカレッジ開催します

当協議会では、コミュニティづくりの大切さ、地域での話し合いの進め方などコミュニティ活動を進める上で必要なスキルや知識を学ぶ講座、「コミュニティカレッジ」を毎年開催しています。

地域で活動されている方や地域活動に関心のある方はぜひ御参加ください。

なお、申込受付等の詳細につきましては、関係機関等を通じて別途改めて御案内します。

お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ。

回数	月　日	10：00～12：00	13：00～15：30	会　場
1	7月23日(土)	・開講式 ・自己紹介／アイスブレイク	講義 「コミュニティづくり」	県総合社会福祉会館 （静岡市葵区）
2	7月30日(土)	講義「コミュニティリーダー」	講義「話し合いの進め方」	
3	8月中	活動集団現地訪問（県内3カ所選定）		1カ所に参加
4	9月10日(土)	ワークショップ「コミュニティ実施計画づくり」		県総合社会福祉会館
5	9月24日(土)	10：00～11：30	11：30～12：00	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 （静岡市駿河区）
		記念講演「未定」	閉講式	

地域の活動応援します

コミュニティ活動集団育成事業まもなく募集開始

趣　旨

この事業は、人々が協力し合って住みよい地域をつくるために活動する集団を「コミュニティ活動集団」として指定し、活動に必要な経費の一部を助成することによって、地域の先導的役割を担う活動集団の育成支援を行うものです。

お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ。

指定の期間　毎年度4月から翌年度３月までの2年間とします。

活動経費の助成　募集集団数15集団。活動経費として1集団当り、初年度7万円、翌年度3万円を助成します。

活動集団の指定　申込みに対してその内容を審査し、指定します。

編集・発行

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町１－70
総合社会福祉会館３階

TEL 054-251-3585

FAX 054-250-8681

URL http://www.sizcom.jp

E-mail sizucom0829@po.across.or.jp

※地域情報お寄せ下さい。

スポーツ安全保険®

スポーツ安全協会 検索 インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

公益財団法人 スポーツ安全協会 静岡県支部

〒422-8004 静岡市駿河区国吉田 5-1-1

TEL054-262-3039

電話受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝日を除く。）

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、インターネットより受付けております。

携帯電話から資料請求ができます。